Interview

特別号：大手民鉄の〝観光列車〟
［観光・インバウンド施策の現状と展望 ―大手民鉄16社―］

「伊豆の旅」の魅力を発信するクルーズトレイン THE ROYAL EXPRESS

2017年7月21日、JR横浜駅－伊豆急下田駅間で運行を開始したクルーズトレイン「THE ROYAL EXPRESS」。伊豆急行の「アルファリゾート21」を改造した車両を、東急が団体臨時列車として借り切り、旅行商品を造成して販売している。古くからの観光名所である伊豆の旅を現代的に、魅力を高めて提供する。鉄道が提供し得る観光とサービス、地域と共につくる新たな魅力について、お話を伺った。

文◉茶木　環／撮影◉加藤有紀／写真提供◉東急株式会社

東急株式会社
交通インフラ事業部
プロジェクト推進グループ 統括部長
兼 鉄道事業本部事業戦略部 担当部長
松田高広
Takahiro MATSUDA

鉄道の力で新たな伊豆の魅力を発信

――「THE ROYAL EXPRESS」はどのような経緯で企画されたのでしょうか。

松田　営業開始の3年前、2014年ぐらいから準備を始めました。けれども、考え方としては、60年前の伊東下田電気鉄道（伊豆急行の前身）設立に通底します。伊豆半島の東海岸を走る伊豆急行線ですが、地元にとって鉄道誘致は何十年もの間の悲願でした。そうした地元の要望をかなえるために、五島慶太翁が鉄道敷設に動いたのです。伊豆を愛する慶太翁は「風光明媚な自然、歴史、海がある伊豆は必ず世界に誇れる観光地になる」と、1953年に伊豆観光開発構想を樹立し、1959年に伊東下田電気鉄道を設立、1961年には国鉄伊東線と接続して伊東駅から下田まで伊豆急行線を開業しました。慶太翁は開業前に亡くなったのですが、その思いはまさに現代のインバウンド施策に通じます。

伊豆はその後、熱海も含め、新婚旅行ブームや団体旅行、海水浴などの観光地として栄え、発展していきましたが、1990年代のバブル崩壊を境に、訪れる人がどんどん減っていきました。旅行形態が団体から個人旅行へシフトし、海外旅行人気やレジャーの多様化に加え、伊豆周辺で発生した群発地震の影響もあり、観光需要が大きく減少していったのです。

伊豆を活性化し盛り上げていこうと、伊豆の魅力PRを目的とした「伊豆急オモシロ駅長」や、オリーブ栽培で新たなビジネスモデル構築を目指す「オリーブ活性化プロジェクト」など、地域に根付いた取り組みも実施してきましたが、伊豆急行線が開業した時のように、再び「鉄道」で何かできないかと考え、発案したのが伊豆観光列車の運行であり、THE ROYAL EXPRESS誕生のきっかけです。

――伊豆という成熟した観光地の新展開を担う形で観光列車を企画されたのですね。

松田　さまざまな観光地へのアクセスが向上している今、関東地方に隣接しながら東京から3時間という時間距離をどう捉えるかが鍵だと思いました。乗車時間が長いことへのストレスがお

客さまの足を遠ざける一因ともなっている。そのような中で、これまでとは違った形で楽しんでいただけないと集客は難しいと考えました。当社は鉄道事業者ですので、鉄道の力を活かす――列車に乗っている時から「旅」が感じられ、素敵な時間を過ごせて、そのベースには「地域」が輝いている。そのようないくつもの付加価値を持つ観光列車をつくることができないかと考え、企画し、提案しました。

――都市鉄道である東急が営業するリゾート地での観光列車という点では、どのようにお考えになりましたか。

松田　東急のDNAは、線路を敷いて移動を可能にし、沿線に豊かな生活を送ることができる〝まち〟をつくることにあります。そうした中にあって、首都圏の都市鉄道としては、通勤・通学時の混雑緩和策をはじめ、安全でスムーズな輸送を第一に考えていくことになります。観光鉄道なら、都市鉄道とは異なることにチャレンジできる。目的地に向かうだけではなく、乗車している時間をいかに楽しんでいただくか。お客さまとクルー、当社と地域の方々――人と人とがつながって鉄道の力で豊かな生活や社会をつくる、地域活性化という課題解決へ向けてチャレンジしたいと考えました。

当時の野本弘文社長（現会長）より「お客さまの素敵な旅物語を創出することは、人々の生活や地域が豊かになり、元気になることとつながっている」と後押ししてもらいました。THE ROYAL EXPRESSという名前も、実は野本が名付け親なのです。

私たちは伊豆への旅がお客さまの憧れとなるような車両空間とサービスを提供したい、この列車を通じて新しい伊豆の魅力をお見せしたいと考えています。伝統文化も含めて、伊豆が持つ素晴らしいものを現代に合う形でつくり、伝えていく。それによって地域にどんどん関心を持ち、訪れる人が多くなる。地元の人たちも伊豆がさらに輝くように努力する。地域の方々と当社が連携して、良いサイクルをつくることに大きな意味があると思っています。

感動を提供する観光列車

――THE ROYAL EXPRESSの車両は伊豆急行の「アルファリゾート21」を改造されていますが、そのリゾート21も当時の観光列車の先駆けでした。

松田　1985年に登場した車両ですが、先頭車には展望席、海側を向いた座席配置やプラネタリウムも楽しめる豪華なボックスシートなんて、とても斬新な発想ですよね。伊豆の人気はアルファリゾート21によっても高まりました。また、こうした列車を今の時代に合わせて生まれ変わらせたいという思いがあって、8両編成をそのままで改造しています。結果、観光列車としてはわが国最大級の定員数100人となりました。

――トータルデザインは水戸岡鋭治さんが担当されています。

松田　水戸岡先生が手掛けられた、いくつかの施設を見学して強く感じたのですが、そこにある素材や技術、あらゆるものに〝人の力〟があるんです。地域や鉄道に関わっている〝人〟の情熱や思いが、デザインを通じて生き生きとこちら側に伝わってくる。これにはすごく心を動かされました。「やはり水戸岡先生に担当していただきたい」とお願いさせていただきました。

開業に合わせて発着駅の横浜駅に新設したラウンジや、今夏に開業した下田ロープウェー寝姿山山頂の「THE ROYAL HOUSE」、ゴンドラのリニューアルも水戸岡先生のデザインです。

――水戸岡先生は鉄道や観光において、人の力をとても大事にされますね。

松田　ええ。「そこに人の思いと、それが動いているということが感じ取れるからこそ、人は感動する」とよくおっしゃっていて、私も現在の業務に携わる中、その通りだと実感しています。

運行開始2年でリピート率12％達成

――旅行商品プランと着地の観光についてはどのようになっていますか。

松田　1泊2日のクルーズプランと片道の食事付き乗車プランが基本となっています。国内のクルーズトレインは車内泊が基本ですが、THE ROYAL EXPRESSでは地元の旅館もしくはホテルにご宿泊いただきます。併せて、不定期ですが、2泊3日、3泊4日の企画運行も実施しています。

また観光については、専属のハイヤーを使って、東伊豆、南伊豆エリアをご案内してきましたが、2019年5月には水戸岡先生デザインによる専用バスを導入してハイヤーと組み合わせ、西伊豆エリアの松崎や中伊豆エリアの湯ヶ島温泉、韮山など、観光エリアを拡大しました。企画運行のプランでは伊豆エリアだけではなく、静岡県全体を視野に入れ、富士山などにも足を運んでいます。

――お客さまの年齢層や現在の稼働状況、リピート率はいかがでしょうか。

松田　60代、70代のお客さまが主ですが、お子さま連れのご家族、2世代、3世代でご乗車いただいています。曜日によって異なりますが、稼働率はおよそ8割で、リピート率は当初目標の

新たな「伊豆の旅」を提案する「THE ROYAL EXPRESS」

上／営業初日、水戸岡氏を中央にテープカットが行われた　左／８号車のライブラリーコーナー
下／技術の粋が光る組子の装飾

10％を達成して、現在は12％程度となっています。２泊３日などの企画運行の９割はリピーターの方々ですね。海外に向けてもプロモーション活動を行っており、今後はインバウンドも拡大していきたいと考えています。

――地域と連携して多様な人々に向けて訴求していくことで、地域力も磨かれていきますね。

松田　８両編成のうち３号車はマルチカーで、コンサートや結婚式などの催事に対応できる設備を整えています。ここを使って、毎年春には、つるし雛の発祥の地である稲取のつるし雛を飾って皆さまにご覧いただいたり、伊豆の食材を販売するマルシェやクリスマスマーケットを開催したりして、地域の歴史や文化を発信しています。

また、車内でご提供する食事や飲み物も監修者の方々が生産者を訪ねて、地域の上質な食材を自身の料理技術により付加価値を高め、お客さまに提供しています。どのような人たちが生産し、つくっているかも含めて、そこにまつわる物語もご覧いただく。それが一番の価値になると思っています。

競争ではなく地域を共創する

――THE ROYAL EXPRESSを北海道でも運行する予定があると伺っています。

松田　ＪＲ北海道から観光列車を運行して、観光振興と地域活性化に取り組みたいというお話があり、２０２０年８月に、札幌～道東エリアで運行することになりました。北海道には輝ける観光資源がたくさんある。当社は伊豆をベースに事業を展開していますが、他の地域においても、その地域の方々と共に地元の魅力を引き出し、お客さまの素敵な旅を創出できる機会があれば、チャレンジしていきたいと考えています。

――ＪＲ北海道以外でも運行する可能性がありそうですね。また、東急には仙台空港の運営や海外ではベトナムでの都市開発事業など、いろいろな分野の方々と連携して事業に取り組む企業風土があります。

松田　当社は、都心部で相互直通運転などを行っており、仙台の空港経営などもそうですが、事業を通じて、地域の人々やいろいろな交通関係者がつながって、それぞれの地域に、今の時代に合った豊かなものをつくっていくことが重要であると思っています。

THE ROYAL EXPRESSも、ＪＲ東日本、伊豆急行と連携して、一緒にこの地域を盛り上げていこうという思いで運行しています。交通事業者が地域内で競争するのではなく、連携して地域を〝共創〟し、お客さまに素晴らしいサービスを提供していく。そうした取り組みが地域の発展につながればという思いでいます。

――創業者であられる五島慶太翁は古美術に造詣が深く、その収集品を展示する五島美術館がありますが、そうした芸術や文化に対する審美眼のようなものが東急には脈々と受け継がれているように思います。

松田　そうですね。人が暮らしていく中には文化があり、そこにはエンタテインメントも芸術もある。当社のターミナルがある渋谷も「エンタテインメントシティ」という面を強く持っています。観光列車も今、ブームと言われていますが、これも一つの旅の文化だと思います。列車の旅であれ、芸術であれ、素敵なものを集めてその時代の日本ならではの文化がつくり上げられていると思っていますし、東急もそういうＤＮＡをもって、まちや人のつながりをつくり、豊かな生活を提供しようとしています。

観光は〝光を観る〟ことだと言われますが、伊豆にある素晴らしいものをお伝えして、地域が発展する。実際にお客さまがこの列車を舞台に素敵な旅を堪能される。私たちはこのTHE ROYAL EXPRESSで人々の文化、地域の文化をつくり、磨き上げ、発信していきたいと思います。

THE ROYAL EXPRESS

煌めく伊豆へ誘う豪華絢爛なクルーズトレイン

前面にはエンブレムとシンボルマークを配置

「THE ROYAL EXPRESS」のコンセプトは「煌めく伊豆。美しさを感じる旅。」。単に目的地へ向かうだけではなく、乗車した瞬間から伊豆への旅の魅力を感じ、豊かな時間を過ごせるように、著名なシェフやフードコーディネーターが監修する料理や飲み物、ピアノやヴァイオリンの生演奏など、高品質な接客サービスが導入されている。

内外装のデザインは水戸岡鋭治氏。インテリアは、天然木や伝統的な素材をもとに匠の技と先端技術を融合、旅の思い出に残る印象的な空間が広がっている。車両ごとにデザインに特徴があり、1･2号車は食事付き乗車プランのゴールドクラス、5～8号車はクルーズプランのプラチナクラスが対象となっている。

DATA

運転区間：ＪＲ横浜ー伊豆急下田
列車種別：団体専用（ツアー列車）
乗車プラン：クルーズプラン（往復１泊２日）
食事付き乗車プラン（片道）

子ども向けに用意された木のボールプール（１号車）

左／ウォールナットの床や天井、ゆったりとした座席配置が優雅な雰囲気を醸し出す食堂車（5号車）　中央／木の葉が描かれた天井、インテリアも緑を基調に（1号車）　右／各種イベントの実施を想定した設備を持つマルチカー（3号車）

Column

地域一体で「上質な時間の提供」に取り組む

一般社団法人下田市観光協会
事務局長
藤原徹佳
Tetsuyoshi FUJIWARA

熱海から下田にかけて伊豆地域の観光客数は、バブル崩壊を境に減少し、東日本大震災で激減しましたが、それ以降は回復傾向にあり、宿泊客数も年々増えているところです。特に2013年頃からはインバウンドの増加が顕著で、特徴的なのは、静岡県全体だと中国の方が圧倒的に多いのですが、下田は欧米の方が多い。砂浜の海岸がある吉佐美地区には海水浴以外のシーズンにも欧米の方々が多くお見えになっています。

伊豆の観光振興は伊豆半島13市町が「美しい伊豆創造センター」を組織して広域で取り組んでいます。今年は静岡県の大型観光キャンペーンの「静岡デスティネーションキャンペーン」があり、一大観光地である伊豆も宣伝活動を協働で行っています。伊豆半島のジオパークの中ではかつては秘洞だった龍宮窟や、柱状節理が見事な爪木崎などが特に人気で、下田市も地元住民と一緒に二次交通や駐車場整備などを進めています。

伊豆地域は東京から特急で2時間40分かかり、時間的距離を短縮することが長らくの悲願でしたが、THE ROYAL EXPRESSが運行を開始して、われわれの意識も大きく変わりました。早さよりも「お客さまに旅の時間を楽しんでいただく」ことを追求する、お客さまは列車内で食事や生演奏を楽しみ、豊かな時間を過ごして下田に降り立たれるのですから、われわれもきちんとおもてなしをしよう、伊豆の魅力を堪能していただこう――地域の役割と責任を強く感じています。駅では伝統の下田太鼓でお客さまをお迎えし、芸者にゆかりのある場所では下田芸者が舞いを披露するなど、地域の文化を楽しんでいただけるように工夫しています。また、土産品や飲食店でのサービスも、THE ROYAL EXPRESSにふさわしいレベルのものをと取り組んでいます。

地域にとってとても良い刺激になっていますし、自分たちも地元の良さを改めて見直し、それを伝えていきたいと思っています。地域を走る鉄道がこれだけ投資をしているのですから、われわれも頑張って伊豆をさらに盛り上げていきたいですね。

龍宮窟